

◎ 燐同盟通信社第拾回社員總會議事錄

昭和拾八年六月貳拾五日午後零時參拾分ヨリ東京市麴町區
內幸町壹丁目壹番地帝國ホテルニ於テ當社第拾回通常社員
總會ヲ開催ス

總社員

九拾壹名

此ノ表決權

七千八百八拾五票

出席社員（委任狀共）

七拾四名

此ノ表決權

七千參百八拾貳票

社長古野伊之助議長席ニ着キ開會ヲ宣シ昭和拾八年六月拾
壹日附第拾回通常社員總會招集通知書ニ記載セル事項ニツ
キ議事ニ入ルベキ旨ヲ告グ

社
法
人
同
盟
通
信
社

一定款第二十一條第一項第二號ニヨル理事補缺選舉ノ件

議長ヨリ定款第二十一條第一項第二號ニヨル理事即チ
選舉理事中島幸基氏（關門日報社）木下猛氏（神戸新
聞社）及兒玉實良氏（鹿兒島日報社）ハ夫々理事ヲ辭
任シタル結果理事定員十二名ニ對シ三名ノ缺員トナリ
居リ補缺選舉ヲ必要トスベキ處前記三理事ハ何レモ任
期ノ途中ニ於テ辭任シタルニ付キ夫々ノ社ノ後任代表
者即チ關門日報社ハ末光正人、神戸新聞社ハ原田棟一
郎、鹿兒島日報社ハ木下猛ノ三氏ヲ殘存期間中後任理
事トシテ推選サレタキ旨議場ニ諮リタル所滿場異議ナ
ク承認決定シタリ

次デ議長ハ第二、第三及第四號各議案ヲ報告スベキ旨ヲ告
ゲ

三、昭和十七年度事業及決算報告ノ件

議長ヨリ昭和十八年六月二十五日開催ノ第二十七回理事會ニ於テ承認ヲ得タル昭和十七年度決算ノ内容ニツキ詳細説明シタリ

三、昭和十八年度豫算報告ノ件

議長ヨリ昭和十八年度豫算一般會計ノ概要ヲ説明シ次デ昭和十七年度迄ハ特別會計トシテ處理シ居タル寫眞部及出版部關係收支ヲ昭和十八年度ヨリ一般會計ニ包括シ又南方通信特別會計ヲ新ニ設ケタル旨ヲ説明シタリ

四、諸般ノ報告

議長ヨリ昭和十七年度中ニ於ケル事業概況中主ナルモ

社団法人 同盟通信社

イ、社員新聞社ノ異動

ロ、職制ノ變更

ハ、支社局ノ新設

ニ、對外無線電信同報ノ擴充

ホ、南方通信網整備擴充

ノ諸件ニツキ詳細説明シタリ

尙社員松本宗重（伊勢新聞社）及同大石光之助氏（靜岡新聞社）ヨリ社費月額ノ調整方ニツキ希望開陳アリ之ニ對シ古野議長ヨリ現在ノ社費月額調整基準ハ最モ公正妥當ナルコトヲ詳細明確ニ説明シ一同之ヲ諒承ヤリ

終ツテ議長ハ第拾回通常社員總會ノ議事ハ全部終了ナル旨
ヲ告ゲ午後壹時參拾分閉會ヲ宣ス
右會議ノ要領ヲ記シ左ニ署名捺印ス

昭和拾八年六月貳拾五日

議長

出席社員

出席社員

高田 邦
宇部 光男
小行 利博

社 團
法 人
同 盟 通 信 社

昭和十八年度一般會計收支豫算

收 入 之 部		支 出 之 部	
新聞通信收入	4,872,840.-	總 體 費	1,370,000.-
經濟通信收入	2,229,600.-	本 社 費	2,920,080.-
海外通信收入	7,343,620.-	國內支社局費	3,286,200.-
通信外諸收入	426,900.-	海外總支局費	4,340,440.-
寫真部收入	686,880.-	國幣電信電話費	822,000.-
出版部收入	1,803,990.-	海外電信電話費	2,216,140.-
小 計	17,363,830.-	寫真部支出	808,440.-
		出版部支出	1,649,140.-
當期缺損金	48,610.-		
計	17,412,440.-	計	17,412,440.-

昭和十八年度南方通信特別會計收支豫算

收 入 之 部		支 出 之 部	
通信諸收入	5,751,000.-	總 體 費	1,378,700.-
通信外諸收入	192,000.-	總支社局費	3,429,300.-
小 計	5,943,000.-	電信電話費	1,148,600.-
當期缺損金	13,600.-		
計	5,956,600.-	計	5,956,600.-

昭和十七年度事業及會計報告書

法社
人團

同
盟
通
信
社

一、昭和十七年度(自昭和十七年四月一日至昭和十八年三月卅一日)事業報告

本期ハ大東亞戰爭第二年目ヲ迎ヘ皇軍ハ至ル所ニ敵ヲ擊碎シテ大洋ニ大陸ニ戰果ヲ益々擴大シツ、アル一面南方占領地域ニ於テハ資源ノ開發既ニソノ緒ニ著キ經濟建設亦頓ニ進捗ヲ見ツ、アルモ他面敵ノ反攻ハ漸ク熾烈ヲ加ヘ就中大平洋並ニ歐阿ニ於ケル反擊ハ甚ダ苛烈ニシテ世界戰局ノ前途ハ容易ニ樂觀ヲ許サルモノアルヲ思ハシムル情勢トナレリ。

此ノ時期ニ際會シ當社ハ武力戰ト併行シテ思想戰ヲ積極果敢ニ展開シ以テ最後ノ勝利ヲ我ニ確保スルノ重大責務ヲ痛感シ之レガ使命達成ト舉社一體ソノ全能力ヲ傾注スルコト、ナシタリ。即チ當社ハ國內ニ於テハ支局及ビ通信部ヲ更ニ増設シテ通信網ノ充實ヲ圖リ以テ報道ノ完璧ヲ期スルト共ニ又國外ニ對シテハ無線電信同報ヲ飛躍的ニ増強シ日々六万語ニ上ル報道ヲ數箇國語ニヨリ晝夜ノ別ナク廣ク世界各地ニ向ケテ發信シソノ電波ハ瞬時克ク或ハ敵國ノ中樞部ニ侵透シテ敵ノ思想惑亂ヲ助長セシメ或ハ諸盟邦ノ手ニ受信セラレテソノ戰意ヲ昂揚鼓舞スルノ役割ヲ果シツ、アリコノ重要部門ヲ分擔セシムル爲新ニ本社ニ海外局ヲ設ケソノ事務ヲ統轄スルコト、ナセリ。

右ト同時ニ南方占領地域ニ對スル啓發報道ノ任務亦重大ナルニ鑑ミ當社ハ同地域ノ通信業務ヲ急速ニ振張シ數百名ノ社員ヲ内地ヨリ派遣シテ各主要地ニ夫々支社又ハ支局ヲ開設シ邦語ノ外現地語、華

文、英文等ノ通信ヲ發行セシムルコト、ナセリ之等ノ支社局數ハ本期末既ニ二十余ヲ算スルニ至リタルヲ以テコノ事務ヲ統轄スルタメ昭南市ニ南方總局ヲ設置シ總局長ヲ常時駐在セシムルコト、ナシタリ。

上記ノ如ク本期ニ於ケル社業ノ異常ナル膨張ニ伴ヒ當社ノ職員數ハ今ヤ五千名ニ垂ナントシ收支概算ハ本期ニ於テ一千九百萬圓ヲ超ヘルニ至レリ。

本期間中ノ重要事項左ノ如シ

一、役員ノ異動

昭和十七年二月十日

理事美土路昌一氏（朝日新聞東京本社）及ビ全原田讓二氏（朝日新聞大阪本社）辭任、後任理事トシテ前者ハ野村秀雄氏（東京本社編輯局長）後者ハ北野吉内氏（大阪本社編輯局長）夫々就任。

全 六月廿七日

理事高石眞五郎氏（大阪毎日新聞社）ハ理事會長ニ、阿部暢太郎氏（福岡日々新聞社）並ニ山田金次郎氏（東奥日報社）ハ夫々理事副會長ニ定款第二十三條ノ二ニ依リ就任。

全 六月廿七日

理事上田碩三氏（同盟通信社常務理事）全光永眞三氏（日本電報通信社社長）ハ定款第二十一條第一項第四號ニ依リ何レモ理事ニ重任、上田氏ハ定

款第二十九條ニ依リ常務理事ニ重任。

全 七月十五日

理事御手洗辰雄氏（京城日報社）辭任、後任トシテ高宮太平氏（京城日報社）就任。

全 八月五日

理事池田正之輔氏（報知新聞社）ハ報知新聞社ト讀賣新聞社ノ合併ニヨリ辭任。

全 八月廿五日

理事阿部暢太郎氏（福岡日々新聞社）ハ福岡日々新聞ト九州日報社ノ合併ニヨリ新設シタル西日本新聞社代表ノ理事ニ就任。

全 九月十五日

理事野村秀雄氏（朝日新聞社東京本社）辭任、後任理事ニ北野吉内氏就任北野氏ノ後任ニハ東口眞平氏（朝日新聞社大阪本社）就任。

全 十一月一日

阿部良夫氏（北海タイムス社）ハ北海道十一新聞社ノ合同ニヨル北海道新聞社創立ト同時ニ辭任、新ニ東季彦氏（北海道新聞社）理事ニ就任。

全 十一月十日

理事小柳調平氏（新潟日々新聞社）ハ新潟縣中央新聞社上越新聞社統合ノ上新設シタル新潟日報社代表理事ニ就任。

全 十一月二十日

理事大島一郎氏（新愛知新聞社）同森一兵氏（名古屋新聞社）ハ新愛知、名古屋兩新聞社ノ合併ニヨル中部日本新聞社ノ創立ニ伴ヒ夫々辭任、新ニ

伊藤正徳氏（中部日本新聞社）理事ニ就任。

昭和十八年一月十日 理事高石眞五郎氏（大阪毎日新聞社）高田元三郎氏（東京日々新聞社）ハ大阪毎日、東京日々新聞兩社ノ毎日新聞社ト社名變更ニヨリ夫々ソノ大阪東京代表ノ理事ニ就任。

全 一月三十一日 理事中島幸基氏（關門日報社）辭任。

全 二月十一日 理事木下猛氏（神戸新聞社）ハ鹿兒島日報社長就任ノタメ辭任。

全 二月十七日 理事兒玉實良氏（鹿兒島日報社）ハ同社々長退任ニヨリ辭任。

全 一月十四日 常務理事堀義貴氏ハ昭和十七年九月八日任期滿了ノ所定款第二十三條第三項ニヨリ任期伸延長サレ居タルガ定款第二十一條第一項第四號ニヨリ重任全第二十九條ニヨリ常任務理事ニ重任。

一、社員總會

本期中開會スルコト左ノ如シ。

昭和十七年六月二十七日第九回通常社員總會

一、理事會

本期中開會スルコト左ノ如シ。

昭和十七年六月二十七日 第二十四回理事會

昭和十八年一月十四日 第二十五回理事會

全 三月二十二日 第二十六回理事會

一、本期末ニ於ケル社員數

前期末即チ昭和十七年三月三十一日現在ニ於ケル社員數ハ百二十三社ナリシ處其ノ後合併廢止等ニヨツテ退社シタルモノアリシタメ昭和十八年三月三十一日現在社員總數ハ八十八社、三協會ナリ。

一、本期末ニ於ケル社員以外ノ通信購讀者數

	内地	支那、南方其他	計
新聞通信	二九六	一、七三八	二、〇三四
經濟通信	九、四六四	一、三六九	一〇、八三三

一、職制一部變更

昭和十七年五月一日 華文放送開始ニ伴ヒ通信局ニ華文部ヲ新設シ、又通信機器ノ研究、設計製作、修理及ビ供給ノ促進ヲ圖ルタメ技術研究所ヲ新設シ通信局ノ所管トス

全 六月一日 札幌及臺北兩支局ハ時局下之等兩地區ノ重要性ニ鑑ミ夫々支社ニ昇格ス。

全 九月二十一日 總務局文書部ヲ庶務部ト改稱シ新ニ資料部及厚生部ヲ設置ス。

編輯局内信部ヲ政經、社會兩部ニ分チ新ニ文化部ヲ設置ス。
調査局ヲ企畫局ト改稱シ經濟局ニ事業部及解説部ヲ新設ス。

昭和十八年二月十一日 對外思想戰ノ重大性ニ鑑ミ且ツ對外電信同報關係部門ノ擴充ヲ機トシ職制ノ改正ヲ行ヒ從來ノ通信、企畫兩局ヲ廢止シ新ニ海外及聯絡ノ兩局ヲ設ケ本社組織ヲ總務、編輯、海外、經濟、聯絡ノ五局トナシ同時ニ各局所屬部名ノ改正廢合ヲ行フ。

一、海外支局ノ新設

ペ ナ ン 支 局	(昭和十七年七月開設)
バ レ ン バ ン 支 局	(同 上)
ク ア ラ ル ン プ ル 支 局	(同 上)
メ ダ ン 支 局	(同 上)
バ リ ッ ク バ バ ン 支 局	(昭和十八年二月開設)
バ ン ゼ ル マ シ ン 支 局	(同 上)
ア ン ボ ン 支 局	(同 上)
ク チ ン 支 局	(同 上)

一、南方支局中支社ニシタルモノ左ノ如シ

ス マ ラ ン 支 局	(同 三月開設)
ダ バ オ 支 局	(同 上)
レ ガ ス ビ ー 支 局	(同 上)
バ ン ド ン 支 局	(同 上)
マ ニ ラ 支 社	(昭和十八年二月)
西 貢 支 社	(全 上)
昭 南 支 社	(全 上)
マ カ ッ サ ル 支 社	(全 上)
蘭 貢 支 社	(全 上)
ジャカルタ支社	(全 上)

一、國內支局ノ新設

山 形 支 局	(昭和十七年六月開設)
津 支 局	(同 上)
佐 賀 支 局	(同 七月開設)

臺中支局 (同) 八月開設
宮崎支局 (昭和十八年二月開設)
釧路支局 (同) 三月開設

一、國內支局ノ廢止

岡谷支局 (昭和十七年六月廢止)
松本支局 (同) 上
桐生支局 (同) 十二月廢止
足利支局 (同) 上

◎通信部開設

横須賀通信部 (昭和十七年六月)
千葉 (同) 上
大湊 (同) 上
水戸 (同) 八月
浦和 (同) 上
宇都宮 (同) 九月

一、市外専用電話線ノ異動

北海道ニ於ケル新聞統合ノ結果小樽、札幌間専用電話線ヲ昭和十八年二月末日限り廢止ス

一、同報無線受信支局増設

室蘭支局 (昭和十七年五月)
福井支局 (全) 七月
高雄支局 (全) 上
山形支局 (全) 上
花蓮港支局 (全) 八月
津支局 (全) 上

臺中支局	(昭和十八年一月)
釧路支局	(全三月上)
佐賀支局	(全三月上)
宮崎支局	(全三月上)

一、對外無線同報ノ擴充

對外無線同報ノ強力發信無電臺ヲ昭和十七年四月及十二月ニ夫々増設シ發信語數ヲ増加セリ。

一、南方通信網整備擴充

大東亞戰爭ノ進展ニ即應シ南方各地間及南方內地間通信聯絡ノ迅速強化ヲ期スルタメ三〇餘ノ支社局ニ無線施設ヲナセリ。

一、社員月額調整

社員新聞社及放送協會ノ社費月額調整ニ關シテハ最モ公正妥當ナル基準ヲ設ケ漸次調整ヲ行ヒタル結果三月末日迄ニ大部分ノ調整ヲ完了セリ。

以上

二、昭和十七年度(自昭和十七年四月一日起至昭和十八年三月三十一日)會計報告

(イ) 貸借對照表

(昭和十八年三月三十一日現在)

資 産 之 部		負 債 之 部	
資 産	圓	負 債	圓
現 金	一、〇八七七四	預 計 保 證 金	七、七九六二九
銀 行 預 金	九六〇、五七一九二	假 受 金	三〇一、九〇〇七五
諸 預 け 金	四、〇六五九一	未 拂 電 信 料	二八七、〇九三三〇
所有 有 價 證 券	八六七、七二六〇〇	未 拂 諸 經 費	一、五二三、六二八七六
保 證 有 價 證 券	一二五、二二七〇〇	未 經 過 通 信 料	四八三、一八五四〇
保 證 金	五三、二五九五四	借 入 金	三、八一六〇六八三
國內支社局手持現金	五六、八一六四一	後 期 繰 越 金	七〇、〇八四一六
海外總支社局手持現金	六〇七、九一六三四		
諸 通 信 社 立 替 金	一六三、六一三二四		
未 收 社 員 分 擔 金	一九三、三二〇〇〇		
未 收 諸 通 信 料	七、二六九〇〇		
諸 未 收 金	二七、五四四八九		
假 拂 金	一、一八、三六〇〇九		
諸 立 替 金	五七九、五三七四一		
什 器 及 備 品	三五五、〇五一九五		
家 屋	一七三、〇一一〇〇		
土 地	五七四、四七二〇五		
事 業 權	六二四、四四五〇〇		
計	六、四九三、二九五四九	計	六、四九三、二九五四九

(口) 收支計算書

(自昭和十七年四月一日
至昭和十八年三月三十一日)

一四

收 入 之 部		支 出 之 部	
新聞通信收入	六、一九九、二九四三七	總 體 費	三、五八三、五四三八九
經濟通信收入	二、一〇一、八〇二三一	本 社 費	二、一四八、四五一八九
海外通信收入	八、四六五、一六五〇九	國內支社局費	二、二一四、八三九二五
通信外諸收入	六九四、〇一〇四二	海外總支社局費	六、四二二、五〇六三四
受入手數料	三三、三六〇〇〇	國內電信電話費	七七〇、〇一二九〇
小 計	一七、四九三、六三二一九	海外電信電話費	二、二一四、八二二四九
特別會計出版部剩餘金繰入	二二、二七一四三	支拂手數料	二八、四九六五一
		諸資產償却費	二六、三八三六七
		小 計	一七、四〇九、〇五六九四
		特別會計寫眞部缺損金補填費	九二、二五八九九
		當期剩餘金	一四、五八七六九
計	一七、五一五、九〇三六二	計	一七、五一五、九〇三六二

(ハ) 財産目録

(昭和十八年三月三十一日現在)

科 目	金 額
現金	一、〇八七七四
銀行預金	九六〇、五七一九二
諸預金	四、〇六五九一
所有有價證券	八六七、七二六〇〇
保證有價證券	一二五、二二七〇〇
保證金	五三、二五九五四
國內支社局手持現金	五六、八一六四一
海外總支社局手持現金	六〇七、九一六三四
諸通信社立替金	一六三、六一三二四
未收社員分擔金	一九三、三二〇〇〇
未收諸通信料	七、二六九〇〇
諸未收金	二七、五四四八九
假拂替金	一、一八、三六〇〇九
諸立替金	五七九、五三七四一
什器及備品	三五五、〇五一九五
家屋	一七三、〇一一〇〇
土地	五七四、四七二〇五
事業權	六二四、四四五〇〇
計	六、四九三、二九五四九

昭和十八年六月

法社
人團

同盟通

信
社

同	理	同	同	理	同	同	同	同	常	社
				事					務	務
				會					理	理
				會					事	長
				長						
一	伊	山	阿	高	鷹	松	堀	上	畠	古
	藤	田	部	石	嘴	本		田	山	野
力		金	暢	眞						伊
次	正	次	太	五		重	義	碩	敏	之
郎	德	郎	郎	郎	壽	治	貴	三	行	助

一六

同同同同同同同同同同同同同同同同同同理

事

小	小	古	山	築	浦	野	高	高	田	河	荻	小	小	林	伊
森	坂	村	本	田	田	中	宮	田	中	村	野	柳	汀		豆
七	武	精	實	欽	芳	楠	太	元	清		元	調	利	政	富
郎	雄	郎	一	郎	朗	吉	平	郎	文	徹	郎	平	得	武	人
				次				三			太				

右
審
查
候
處

監	常	相	同	同	同	同	同	同	理
	務	違							
事	監	無							事
	事	之							
		候							
福	古	也	杉	關	東	清	宮	光	北
田	賀		山		口	水	崎	永	野
恭	傳			正	眞	順	光	眞	吉
助	吉		榮	雄	平	治	男	三	內
									彦

